

# 主要医療関連サービス市場に関する調査結果 2010

－医療周辺業務のアウトソーシング進展で一大サービス産業に－

## 【調査要綱】

矢野経済研究所では、次の調査要綱にて、主な医療関連サービス市場に関する調査を実施した。

1. 調査期間：2010年2月～5月
2. 調査対象：主な医療関連サービスである医療事務、滅菌、廃棄物処理、給食、検体検査の5受託業務に参入している企業
3. 調査方法：当社専門研究員による関連企業等面接触材、電話取材、ならびに文献調査を併用

### <主要医療関連サービス市場とは>

本調査では、医療関連サービスのうち「医療事務」、「滅菌」、「廃棄物処理」、「給食」、「検体検査」の5受託業務を主要医療関連サービスとし、サービス受託企業の売上高ベースにて市場規模を算出した。

## 【調査結果サマリー】

### ◆ 2010年、主要医療関連サービス5業務合計の受託市場規模は1兆4,800億円に

2010年の主要医療関連サービスである、医療事務、滅菌、廃棄物処理、給食、検体検査の5業務の受託市場規模は合計1兆4,800億円と予測する。1995年の当該5業務合計市場規模は合計9,930億円であったことから、1995年比で149%の成長を遂げている。

### ◆ サービス別では給食、検体検査、医療事務などの市場規模が大きい

サービス別の2010年の市場規模において、最も市場規模が大きいのは給食で7,000億円。次いで検体検査4,920億円、医療事務1,880億円となっている。2010年/1995年の市場成長率が最も高いのは滅菌(700%)。次いで、給食(280%)、医療事務(269%)、廃棄物処理(147%)となっている。

### ◆ 外部委託率の上昇とともに市場成長率は鈍化の方向。潜在市場観点では滅菌などが有望

順調に推移してきた各種医療関連サービスも病院等による業務外部委託率の上昇とともに全体的に成長は頭打ちとなる見通しである。今後の外部委託動向、潜在市場などを考えると滅菌代行サービスの伸びなどが期待できる。

### ◆ 資料体裁

資料名：「医療関連ビジネス実態調査 2010年版」  
 発刊日：2010年5月21日  
 体裁：A4判 202頁  
 定価：126,000円（本体価格120,000円 消費税等6,000円）

### ◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地：東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長：水越 孝  
 設立：1958年3月 年間レポート発刊：約250タイトル URL：<http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先(当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>)

㈱矢野経済研究所 営業本部 広報宣伝グループ TEL:03-5371-6912 E-mail:[press@yano.co.jp](mailto:press@yano.co.jp)

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。  
 本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報宣伝グループ迄お問合せ下さい。

## 【 調査結果の概要 】

### 1. 市場全体概況

本調査では、医療機関等における周辺アウトソーシングサービスとして医療事務、滅菌、廃棄物処理、給食、検体検査の5業務を対象に、1995年～2005年の国内の受託市場規模実績(5年おき)および2010年の予測を実施した。

5業務合計の市場規模では1995年9,930億円、2000年11,050億円、2005年13,140億円と推移し、2010年には14,800億円になるものと予測する。

2010年の合計市場規模は、1995年比で149%となっており医療周辺業務を支える基幹的なサービス産業に成長している。関連事業を展開する上場企業なども多数存在する。

1990年代は単純な業務代行の視点で医療周辺サービスの外部委託化が進められた。2000年以降は複数業務を同時に発注する形態などが進展、事業者間ネットワークの中で対応することも求められている。最近では周辺業務にとどまらず病院経営そのものに対するマネジメント体制等を提案する企業も出現、経営パートナーとしてより対等な立場に近づきつつある。

### 2. 各事業別概況

医療事務は医療機関の外来受付、カルテ管理、診療報酬請求事務、医事会計などを病院職員に代わって行う業務を指す。国公立病院などでの委託率はすでに80%程度と見られ成長はやや鈍化傾向にある。既委託病院の業務範囲拡充、サービス内容の高付加価値化などが進められている。2010年市場規模は1,880億円と予測する。

滅菌は、医療機関内で使用された医療用器具、リネン類などの滅菌消毒を行うサービスを指す。院内請負型、滅菌センター持ち出し型の両タイプおよび上記併用型などがある。院内請負型で接点をもち、必要に応じてセンター持ち出しに切り換えるのが一般的である。病院の当該外部委託率は20～30%と見られ、潜在市場の観点で期待がもてるビジネスである。2010年市場規模は280億円と予測する。

廃棄物処理は、医療機関で排出される感染性医療廃棄物の収集・処理サービスである。外部委託率は95%を超しており、委託率の観点からは飽和状態だが、ディスプレイ機器等の増加、透析患者の増加などを背景に対象廃棄物量は増える傾向が続いている。2010年市場規模は720億円と予測する。

給食は病院や福祉施設等における食事提供受託サービスを指す。病院分野での業務委託率は60%以上と見られ、成長は鈍化傾向にある。一方、福祉施設等の方は、各種高齢者介護施設数の増加などもあって本受託事業は拡大している。2010年市場規模は7,000億円と予測する。

検体検査は、血液、尿、組織など患者の体から採取した検体の検査を受託するサービスである。多くの病院で検査室を有しているものの、検体内容等により外部委託の方が効率的・効果的と判断される傾向が強いことから、同受託サービスが広く普及している。検査受託単価の下落などが影響し市場規模は1996年頃をピークに約10年にわたり縮小傾向となった。しかし、高齢化の進展や予防医療意識の高まりなどを背景に、検体数的には増加基調にある。2006年頃を底に市場は若干の上向きとなっている。2010年市場規模は4,920億円と予測する。

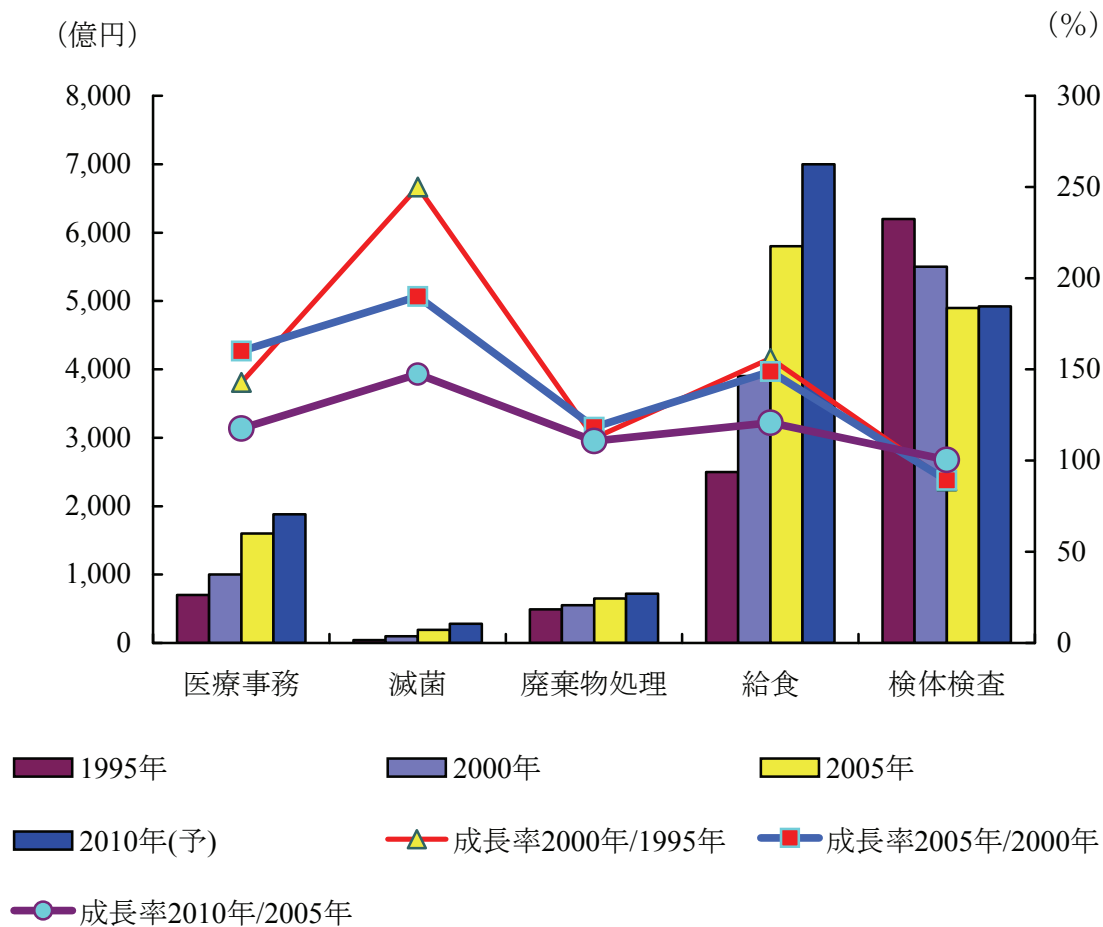
### 3. 将来展望

これまで、国民医療費の伸び、医療需要の伸びに支えられ、成長を遂げてきた医療周辺業務のアウトソーシングサービスであるが、医療機関の当該業務外部委託率の上昇とともに、全体的に市場成長率は鈍化の方向にある。病院数は減少の方向、国民医療費も増加抑制を強いられており従来の枠組み通りに進めても成長は望みにくいビジネスに近づいている。

今後は、病院経営全般への関与、あるいは医療本質部分の人材ビジネスとしての展開、健診関係を含めた予防医療分野の取り組みなどが重要になると考えられる。

さらに医療機関を顧客とする見方を一歩進め、最終ユーザーである、患者ニーズをどう捉えるかが大事になる。「患者アメニティ向上」の視点などはよりクローズアップされることになるだろう。

図表1.主要医療関連サービスの市場規模推移と成長率



(単位:億円、成長率%)

	1995年	2000年	2005年	2010年 (予)	成長率2000 年/1995年	成長率2005 年/2000年	成長率2010 年/2005年	成長率2010 年/1995年
医療事務	700	1,000	1,600	1,880	142.9	160.0	117.5	268.6
滅菌	40	100	190	280	250.0	190.0	147.4	700.0
廃棄物処理	490	550	650	720	112.2	118.2	110.8	146.9
給食	2,500	3,900	5,800	7,000	156.0	148.7	120.7	280.0
検体検査	6,200	5,500	4,900	4,920	88.7	89.1	100.4	79.4
合計	9,930	11,050	13,140	14,800	111.3	118.9	112.6	149.0

矢野経済研究所推計

注1: サービス受託企業売上高ベース

注2:(予)は予測値